平家物語 ・木曽の最期・

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段	第四段
〔①　　〕は、堂々の名乗りを上げて、敵の大軍に攻め入り、縦横に駆け割って闘った。三百余騎が五騎になってしまうまで、〔②　　〕は戦い抜いたが、〔①〕の命令で〔③　　〕へ落ちて行った。	〔①〕は、兵平と〔④　　〕だけになって、ふと気弱な言葉を漏らすが、兵平は、〔①〕を励まして、名誉の自害を勧める。兵平と一緒の討ち死にを願った〔①〕だったが、兵平の懇願で、自害するべく〔⑤　　〕へ向かう。	兵平は、自害する〔①〕を援護するために、ただ一騎で敵を迎え打ち、最後の奮闘をし続けるのだった。	〔①〕は〔⑤〕へ向かうが、深田に〔⑥　　〕の脚を取られて、兵平のほうを振り返ったところを、石田の次郎主従に討たれてしまう。それを見て、兵平は壮烈な自害を遂げた。

重要語句 次の語句の意味を答えなさい。

(1) 聞こゆる（八六・12）
(2) あます（八七・6）
(3) 具す（八八・1）
(4) 日ごろ（八九・1）
(5) おぼしめす（八九・4）
(6) 知ろしめす（九〇・13）

重要文法 次の語は何の音便形か、もとの形を答えなさい。

(1) 口惜しう（九〇・5）
(2) 追つかかつて（九二・1〜2）
(3) よつぴいて（九二・2）

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「今井四郎兵平」は、「木曽義仲」とどのような関係にあるか、本文から**二字**で抜き出しなさい。

2 「最後のいくさ」（八七・15）について義仲がこのいくさで覚悟していることを本文から**二つ**抜き出しなさい。

もしくは

3 「木曽殿の最後のいくさに、……しかるべからず。」（八七・15～八八・2）とあるが、「女を具」しているとなぜいけないのか。その理由として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　女を連れていると人質にとられやすいから。
イ　女を連れていては、最後に逃げるときに不利だから。
ウ　最期に女を連れていたと言われるのも武人としてよくないから。
エ　女を道連れにしたと言われるのは男として耐えがたいから。

□

4 「あつぱれ、よからう敵がな。」（八八・5）という巴の心情として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　義仲に家臣として最後のいくさ姿を見てもらいたい。
イ　義仲も認める働きをしてここに残りたい。
ウ　よい敵と戦う義仲の姿を最後に見たい。

□

5 「日ごろは何ともおぼえぬ鎧が今日は重うなつたるぞや。」（八九・1）とあるが、義仲がこのように言った理由を説明しなさい。

6 「御身もいまだ疲れさせ給はず。」（八九・3）という兼平の言葉に込められた心情として適当なものを、次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　怒り　イ　励まし　ウ　弱気　エ　あきらめ

□

7 「御身もいまだ疲れさせ給はず。」と言っていた兼平が、「御身は疲れさせ給ひて候ふ。」（九〇・2）と言い直したのはなぜか説明しなさい。

8 「さらば。」（九〇・8）について説明した次の文の空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

A　と共に　B　しようと思っていたがそこまで言うなら　C　をしようということ。

9 「さてこそ粟津のいくさはなかりけれ。」（九二・13）という末尾の一文は、木曽義仲の最後の戦いをどのようなものとして述べているのですか。